

びろっぱ

Vol.481 2026. 8



〈クラウドファンディング「空の架け橋プロジェクト」〉

薬剤棟・空中通路 完成

表紙の写真

医療情報

化学療法センター センター長交代

〈近森病院開設80周年記念事業〉

第26回 近森病院公開県民講座



薬剤棟・ 空中通路 完成

2026年7月7日 竣工記念式

入江理事長プロジェクト1 完了



社会医療法人近森会
理事長

入江 博之

いりえ ひろゆき

ご承知の通り、近森病院は高知市中心部に位置する災害拠点病院です。しかしながら、南海トラフ地震の際、最悪のシナリオでは、建物の1階部分まで津波の影響を受けると予測されています。従来、薬剤部は1階にありましたが、水や食料等の備蓄については、北館に十分なスペースがありましたが、本館には約3日分のスペースしかありませんでした。このため薬剤棟を建設し、空中通路で本館と北館をつなぐ工事を行い、この度無事竣工を迎えました。

これにより6階建ての薬剤棟のうち、薬剤部は4階から上に移設し、空中通路により、医療材料、水、食料などを自由に移動させることが

できるようになりました。この工事には、クラウドファンディング「空の架け橋プロジェクト」で全国から目標を大きく上回るご厚意をいただきました。ありがとうございました。

七夕の日に行われた竣工記念式には、多数のご来賓をお迎えでき、その期待の大きさを改めて認識できました。

短冊に「大災害が来ませんように」との願いを記載させていただきました。





空中通路



薬剤棟(4階)



▲ 左から、小西啓太様(大旺新洋株式会社 代表取締役社長)、河合祐子様(株式会社高知銀行 取締役頭取)、山元文明様(株式会社四国銀行 取締役会長)、田邊光治様(高知県健康政策部 副部長・知事代理)、入江理事長、中谷元様(衆議院議員)、桑名龍吾様(高知市 市長)、野並誠二様(一般社団法人高知県医師会 会長)、高崎元宏様(一般社団法人高知市医師会 会長)



◀ (写真左)約90名のご来賓・関係者が出席した竣工記念式。報道機関の皆様にも取材いただき、薬剤棟・空中通路の完成を地域の皆様にお伝えする機会となった。(写真右)式終了後、ご来賓を対象として新しい施設の見学を行なった。



化学療法センター センター長交代

多様化するがん薬物療法を安全かつ 快適に受けられるセンターを目指して

近森病院 化学療法センター
センター長 杉本 健樹

すぎもと たけき

近森病院 乳腺センター センター長
兼 乳腺外科 特任部長

交代日／2026年7月1日

この度、化学療法センター センター長を拝命いたしました。2年前の近森病院への入職以来、私自身もセンターを利用して乳癌の薬物療法を行ってきました。当初からスタッフのチームワークがよく、不快な副作用に苦しむ患者さんに寄り添いながら向き合っていたいただき、脱毛軽減のための頭皮冷却などもスムーズに導入することができました。

がん薬物療法の中心は現在も抗がん剤ですが、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤や二重特異性抗体などの抗体製剤、抗体-薬物複合体など多くの薬剤が次々と登場し、治療成績の向上とともに多種・多様な副作用への対応が迫られています。そのため、当センターでは今まで以上に多診療科・多職種連携を強化します。チームでよりよい支持療法を行い、不快な副作用を軽減して安全であると同時に、がん薬物療法をより快適に受けられるようにスタッフ一丸となって取り組んでいきたいと思っております。

【出身大学】

高知医科大学(現高知大学) 1985年卒業

【主に担当する疾患・手技】

乳癌、乳腺良性疾患、遺伝性腫瘍(特に遺伝性乳癌卵巣癌症候群)

【認定資格】

- ・日本外科学会・外科専門医・指導医
- ・日本乳癌学会・乳腺専門医
- ・日本人類遺伝学会・臨床遺伝専門医
- ・日本遺伝性腫瘍学会 遺伝性腫瘍専門医・指導医
- ・日本遺伝性腫瘍学会 家族性腫瘍カウンセラー
- ・日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
- ・日本乳がん検診精度管理中央機構
検診マンモグラフィ読影認定医師(評価AS)
- ・乳がん検診超音波実施・判定医師
- ・乳房再建用エキスパンダー・インプラント責任医師
- ・医学博士(高知医科大学(現高知大学)-1989年)



ありがとう
ございました!



献血

2026年6月24日

結果

- ・協力者(受付者数) 39名
- ・うち400mL献血が
できた方 36名

あいにくの雨で足元の悪い中、ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。次回10月は、秋晴れの下、たくさんの方にお越しいただければ幸いです。

職員 募集中!



詳しくは、近森会
グループHPの
採用ページを
ご覧ください。



3,000とおりの誇れる仕事

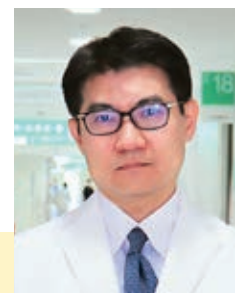
募集職種

- ・医師
- ・診療放射線技師
- ・看護師
- ・臨床検査技師
- ・介護福祉士
- ・事務
- ・救急救命士

論文掲載

下肢閉塞性動脈疾患(足の動脈硬化)に対する新しい治療選択肢として

近森病院 循環器内科 主任部長 關 秀一
せき しゅういち



論文名

Three-year outcomes of the TCD-17187 (Kanshas) drug-coated balloon for the treatment of atherosclerotic lesions in the superficial femoral and proximal popliteal artery
(浅大腿-膝窩動脈病変に対する薬剤コーティングバルーン3年治療成績)

閲覧は
こちらから➡



掲載誌

CVIR Endovasc. 2026 Apr 24;9(1):48. doi: 10.1186/s42155-026-00695-7.

足の動脈硬化に対するカテーテル治療において、今年から本格導入となる新しい薬剤コーティングバルーン(再狭窄を予防する薬を血管の内側に塗る)の良好な成績と安全性を、全国22施設を代表して発表しました。糖尿病や高血圧などの生活習慣病が原因となる足の動脈硬化が、高齢化に伴い増加しています。初期は歩くとふくら

はぎが痛くなり休むと治りますが、進行すると安静時にも強い痛みが続き、足の傷が治らず壊死することもあります。放置すると、足の切断や全身の動脈硬化が進んでいるサインとして心筋梗塞や脳梗塞の危険も高まります。こうした重篤な状態を防ぐためには、早期発見と適切な治療が必要です。

学会発表

TCTAP(アジア太平洋経カテーテル心臓血管治療学会) (2026年4月29日~5月2日/韓国)

一人で突撃した国際学会

近森病院 循環器内科 松田 英之
まつだ ひでゆき



演題

A Case of Successful Dilation Using Intravascular Lithotripsy for In-Stent Restenosis With Stent Expansion Failure and Recurrent Restenosis

(再狭窄を繰り返したステント拡張不良を伴うステント内石灰化病変に対してIVLを用いて良好に拡張することができた症例)

今回、韓国で開催されたTCTAP(アジア太平洋経カテーテル心臓血管治療学会)という学会に参加し発表してきました。以前、山本先生が連れて行ってくださった時のことが忘れられず、今回一人で突撃してきました。周りに知り合いもいない中での英語の発表で、極度の緊張で記憶はほとんどありませんが、なんとかやりきることができました。ただ質疑応答で海外の参加者からの多くの意見に対して、自分の考えを説明するのに時間がかかってしまい、まだまだ自分の未熟さを感じ、これからさらに成長したいと思いました。

発表の内容としては、PCIの分野で何回も再狭窄を繰り返し治療に難渋していた病変に対して、IVL(ショックウェーブ)という新しい機器を用いて治療することができた症例を発表してきました。PCIの分野においても新しい機器がどんどんできており、それぞれの機器の特徴を理解した上で選択し治療することが求められる時代となりました。これからも日々学び、いろんな方と議論しながら、よりよい医療を提供できるように精進していきたいです。



国際救助隊訓練に 評価員として参加

～イタリアの訓練から学ぶ一体感～

2026年5月16～25日／イタリア・ピサ

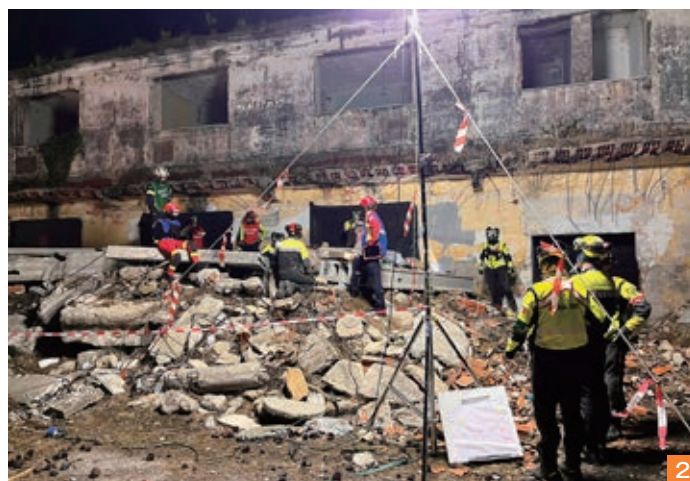
近森病院
救命救急センター長／
救急科 部長／
災害対策委員長

井原 則之 いはら のりゆき

2026年5月、イタリア・ピサで行われた国際的な災害救助隊の認証評価訓練に、医療分野の評価員として参加しました。これは、大地震などで建物が倒壊した現場に海外から派遣される救助隊が、国際基準に沿って活動できるかを確認する訓練です。

現地では、イタリアの国家消防救助隊が、少人数ながら救助、医療、安全管理、除染、生活拠点の運営までを一体となって行っていました。特に印象的だったのは、医師と看護師が救助隊員と共に現場へ入り、狭い空間で傷病者を診察し、処置、固定、搬出まで深く関わっていたことです。技術面では日本の救助・医療にも誇れる強みがあります。一方で、職種の枠を越えて支え合い、疲れを見せずに活動し続ける姿から、多くの学びと感動を得ました。彼らは6月24日に発生したベネズエラ地震でも、翌日には現地入りして他国と協力して救助活動を行いました。

この経験を、今後の国際緊急援助活動や、当院の災害対応力向上にもつなげていきたいと思います。



(写真) 1. 国際認証評価を受審した記念の盾を現地の救助隊と一緒に掲げる筆者。2. 48時間連続で行った救助活動現場。3. 瓦礫の内部に入り、写真奥に見える医療スタッフと救助隊員の活動を評価。4. 国際認証を更新したイタリアの救助隊員・医療スタッフとの記念写真。

学会受賞

初期研修医 2年目 山崎 開斗 やまさき かいと

第128回 日本循環器学会
中国・四国合同地方会
学生・初期研修医
奨励賞 受賞



演題

ECPR施行後、同日に緊急TC-TAVIを行い、救命できたVery severe ASの一例

◀ 指導医の西村医師(右)と会場で。



近森で、
学ぶ。
Open Campus.

近森病院附属看護学校
オープンキャンパス

9/6 SUN 日

社会人
向け

詳細は 近森看護学校 で検索、もしくは右のQRコードより公式ホームページをご確認ください。社会人や保護者の方の参加も大歓迎です。





—— ドイツの地で学んだこと ～釣りと医療に見る“仕組み”～ ——

短い夏を楽しむドイツの暮らし

ドイツにもやっと短い夏が訪れました。ドイツでは年間30日間の有給消化が義務付けられており、職場では誰もがこぞって3週間くらいの休暇をとって、旅行やアウトドアに勤しんでいます。

さて、自分は休日に何をしているかという「釣り」です。ドイツで釣りをするためにはdie Fischereiprüfung、つまりドイツ語の試験に受からなければなりません。筆記と実技があり、筆記は大学入試センター試験の生物みたいなもの+法律関係、実技は20分以内に3種類の仕掛けを作って、試験官とDiskussion(ディスカッション)をするというものです。自分はブラウントラウトを日本の伝統釣法で釣っています。珍しいのか、よくドイツ人の釣り人から話しかけられて談笑するのですが、彼らの考え方は独特で勉強になります。

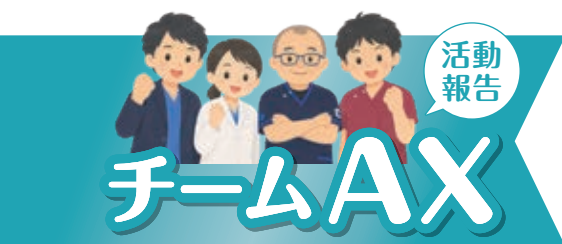
“資格”と“責任”の考え方

釣りですら免許が必要のように、ドイツでは資格や階級によって何が許されているかが細部まで明確に規定されています。仕事でもAssistenzarzt(修練医)からChef Arzt(管理責任者)まで階級が明確化されており、役割が決まっています。年齢は関係なく、実績のみで決まります。自分はドイツでの実績は何もないのにいきなり手技に入れてもらっており、日々感謝しています。ドイツ人のAssistenzarztは30人以上いるのに、誰も手技には入れ



ないので少し申し訳ないですね。

ドイツ留学も終盤となり、日本、そして高知県が今後解決すべき課題も自分の中で明確になってきました。帰国後も精一杯頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。



臨床検査部と購買管理課の 納品データ連携を改善!

納品データの二重入力を解消し、
業務効率とデータ精度が向上しました。



- 成果**
- ☑ 購買管理課での入力作業削減
 - ☑ 転記ミスの防止
 - ☑ 部署間データ連携の効率化
 - ☑ 既存Excelデータの有効活用

月間 約 **5.5** 時間

年間 約 **66** 時間の作業時間 **削減!**
(8.25日相当) ※1日=8時間換算 (見込み)

● 通常の入力作業
= 1件あたり約120秒×
月平均件数165件

すまいる♥ナース通信 # 認定看護師



近森会グループ看護部
マスコットキャラクター モリンちゃん

がんサポートチームで

近森病院 化学療法センター 主任／
がん薬物療法看護認定看護師

塚本 綾 つかもと あや



がん薬物療法は入院治療から外来治療へと移行し、患者さんは仕事や日常生活を送りながら治療が受けられるようになりました。しかし、治療に伴う副作用や体調の変化、病気に関するさまざまな不安な思いを抱えている方も多くいらっしゃいます。

化学療法センターでは、看護師、薬剤師、管理栄養士、漢方処方医、歯科医によるがんサポートチームで、患者さん自身が副作用をコントロールしながら自分らしく、より安心・安全で確実な治療を受けられるよう支援をしています。このチーム活動については、株式会社ツムラの発行する医療雑誌に紹介されました。

また昨年からは、一部の外科手術を受けられる患者さんの全身状態を早期から評価し介入する、周手術期がんサポートも行っています。

専門性の高いチームによるサポートが患者さんに届けられるよう、「患者さんのために」全力で取り組んでいます。お一人で悩まず、ぜひご相談ください。



キッチンカーが近森へやってきた!

ランチタイム充実プロジェクトチーム／
臨床栄養部 部長 宮島 功 みやじま いさお

2026年6月15日

職員のランチタイムをより充実させるため、6月15日にキッチンカーの出店を初めて実施しました。初回は「キッチン458」さんにお越しいただき、用意した80食以上が完売する大盛況となりました。

今後は毎月第3金曜日を基本に開催する予定です。これからも職員のランチタイム充実に向け取り組んでいきます。いつもとひと味違うランチを、ぜひお楽しみください。



2027
年度

近森会グループ

笑顔の私、最強説。

看護師採用試験 第3回 2026 8/29 SAT 土 .30 SUN 日 第4回 2027 1/30 SAT 土 .31 SUN 日

●お問い合わせ先／TEL:088-822-5231(代表) メール:kango@chikamori.com



熱烈応援 昇格人事

前向きに 一歩ずつ

近森リハビリテーション
病院
言語療法科 科長
横畠 史佳
よこばたけ ふみか



このたび科長を拝命いたしました。これまで支えてくださった皆さまに心より感謝申し上げます。医療を取り巻く環境や働き方が大きく変化する中ですが、目の前の課題に真摯かつ丁寧に取り組み、より良い医療の提供と活気ある職場環境づくりに努めてまいります。今後ともご指導、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

ハッスル研修医

よさこいと研修の日々

初期研修医 1年目

竹内 晴菜 たけうち はるな

研修医として働き始めてからは、毎日新しい発見の連続で、充実した日々を過ごしています。まだまだ分からないことも多く、周囲の先生方やスタッフの皆さまに助けをいただきながら奮闘中です。

高知県民として幼い頃から親しんできたよさこい祭りですが、今年は近森病院よさこいチームの一員として参加します。練習を通して普段関わる機会の少ない職種の方々と交流でき、近森病院の魅力を改めて感じています。本番では笑顔と元気を忘れず、チームの一員として精一杯頑張りたいと思います。

未熟な部分も多いですが、一つ一つの経験を大切にしながら成長していきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。



近森会グループで元気に働く仲間を紹介します

熱烈練習中!

よさこい

チームの公式HPは
こちら! ➡

※「よさこいちかもり」の題字は中嶋医師が揮毫しました。

楽曲や最新情報を公開中です。
どうぞご覧ください!

全14職種!

高知

医療職のリアルに触れる!

第3回

**高校生
進路発見
セミナー** in 近森
病院

8/23 開催

み聞 現
よ場
うい の
うて 声、

第一部
9:30~12:00
(9:00~受付)

第二部
13:30~16:00
(13:00~受付)

定員 100名程度
対象 高知県内の高校生

募集
締切 **8月20日(木)**

お申込み・詳細は
▼特設サイトから

近森 進路発見

第26回 近森病院

2026 5月31日(日)

ジャンルを超え

基調講演

第一部

基調講演 ～医師・管理栄養士・薬剤師による災害対策のお話

近森病院 救命救急センター長／
救急科 部長／災害対策委員長

井原 則之 いはら のりゆき

5月31日、近森病院主催の公開
県民講座「未来への架け橋 ～来る
災害に、私たちは何ができるか～」
を開催し、多くの県民の皆さまにご
参加いただきました。

防災の目的は、 ただ生き残ることではない

第一部では、井原則之が「防災の目的は、ただ生き残ることではない ～南海トラフ地震と高知の未来～」と題して講演しました。南海トラフ地震による甚大な被害が想定される高知県において、防災とは単に命を守ることだけではなく、その後の暮らしや地域の復興につなげるための取り組みであることをお伝えしました。また、公的支援だけに頼るのではなく、一人ひとりが日頃から備えを進める重要性についてお話ししました。

災害時の食と栄養を守る

続いて、内山里美臨床栄養部
副部長は「災害時の食と栄養を
守る ～未来へつなぐそなえと
近森式 食の備え～」と題し、避難
生活で生じやすい栄養不足や
脱水への対策、日常生活の中で



左より筆者、臨床栄養部 内山里美副部長、薬剤部 筒井由佳部長。

無理なく実践できるローリングストックについて分かりやすく説明しました。

災害時でもいつものお薬を

さらに、筒井由佳薬剤部部長が「災害時でもいつものお薬を ～お薬手帳と近森フォーミュラリの取り組み～」と題して講演し、災害時における服薬継続の重要性や、お薬手帳が果たす役割について解説しました。また、限られた医薬品を有効に活用するための近森フォーミュラリの取り組みも紹介しました。

未来への架け橋 ～守るための備え～

医療・薬・食は、いずれも災害時の健康と生活を支える重要な柱です。今回の講座が、参加された皆さまにとって、未来の自分や家族、地域を守るための備えを考えるきっかけとなれば幸いです。

未来への架け橋
来る災害に、
私たちは何ができるか



院公開県民講座

高知県立県民文化ホール

グリーンホール（新来島高知重工ホール）

えた2つの講演

名字…足利尊氏、織田



第二部特別講演の解説

社会医療法人近森会
理事長

入江 博之

いりえ ひろゆき



「おなまえ」の特別講演をお願いした理由

第二部として、日本人の名字のルーツ —高知県の名字も交えて—という演題で森岡浩先生にお話しいただきました。第一部の災害に関する基調講演の後に、「おなまえ」の特別講演をお願いしたのは理由があります。

少し前に高知県の地名の由来を見ていました。その中では、高知県・大方町（現黒潮町）の名前の由来は、平安時代の大地震、津波によって陥没して、大きな渦ができた。それにちなんで大渦町としたが表現を和らげるために「大方町」にした、とのことでした（一次資料は不明）。

また、全く水と関係ない土地に、「川」や「池」がついた地名があります。現在ではただの陸地しか見えませんが、元々はそこに川があったり、池であったことに由来するとのこと。こういったことで、地名に水に関する名字がついているということでした。なるほどですね。



名字研究家・森岡先生の オンリーワンのご講演

その一方で、昨年、土佐高校の記念行事で、NHK番組「日本人のおなまえっ!」といった番組で有名になった、OBの森岡浩先生の講演を聞く機会がありました。大変面白く、引きつけられる内容でした。日本中の電話帳を集め、名字を調べ、データベースを作られたとのこと。今の言葉で言えば「オタク」の仕業としか考えられませんが、日本でオンリーワンの存在だと思います。このつながりで、災害の基調講演の後に日本の名字、特に高知県の名字について詳しくご講演いただくことにしました。

期待通り、講演の内容は大変楽しく、また驚きに満ちたものでした。会場においでくださった方々も、予定時間を15分過ぎてもどなたも立とうとはされませんでした。皆さんが第一部の災害の話をお忘れしていないことを祈ります。

特別講演

第二部

日本人の名字のルーツ —高知県の名字も交えて

講師

森岡 浩先生
名字研究家（高知県出身）
高橋 小公 山本 井上 片岡 山中 浜田

ロビーでは近森病院80年の歩み等のパネル展示のほか、大塚製薬株式会社様やミドリ安全株式会社様の協力による災害備蓄展示、サンプルの配布が行われ賑わいを見せた。また、当日の司会は高知放送アナウンサーの有吉都氏が務めた。





リレーエッセイ

休日の過ごし方

近森病院 リハビリテーション部 言語聴覚士 森田 瑞穂

もりた みずほ

我が家には、体力おばけな3歳児がいます。片付けても一瞬でおもちゃ箱をひっくり返されるため、休日は公園などへのお出かけが定番です。特にお気に入りなのは、四万十町の「四万十緑林公園」。長いローラーすべり台やアンパンマンのゴーカートがあり、夏は小川で水遊びも楽しんでいます。期間限定の「森のピアノ」から響く音色や、のどかな公園の風景には、大人も癒やされます。また、夏には室内で涼める「佐川おもちゃ美術館」もお気に入りです。木のボールプールで化石探しやリンゴ狩りなど、温もりある空間で一緒に楽しんでいます。「たくさん遊んだし、夜は爆睡!」と期待するものの、帰りの車内で爆睡してチャージを完了した娘は、帰宅後におもちゃ箱をひっくり返して遊び始めます。やはり部屋はおもちゃだらけとなります。子どもと過ごせる時間は短いと聞くので、たくさん遊びたいです。みなさんのおすすめの遊び場があれば、ぜひ教えてください。



私の趣味

私の日々の支え

秘書課 桑尾 知里

くわお ちさと

私は幼い頃から、旅行好きの母とライブ好きの父の影響もあってか、アイドルや旅行が好きでした。

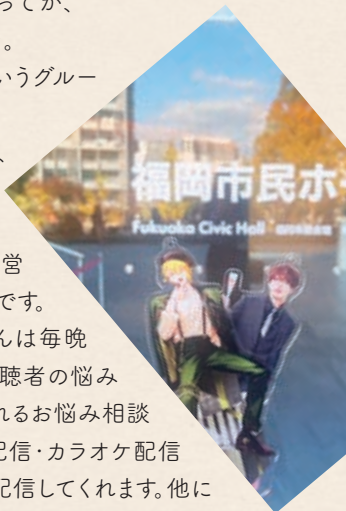
現在は「浦島坂田船」というグループを推しています。

毎週月曜日に定期配信、オリジナル/カバー曲の投稿、日本全国でライブツアー、声優活動、ブランド経営など幅広く活動している方々です。

私の推しであるセンラさんは毎晩個人配信をしてくれます。視聴者の悩みに対してアドバイスをしてくれるお悩み相談会配信・雑談配信・ゲーム配信・カラオケ配信があったり毎日違った形で配信してくれます。他にも、作詞作曲もしているのでセンラさんの作った曲を聴いて毎日元気をもらっています。

落ち込んだ時に元気をくれたり、ライブに参戦する際に

全国各所の観光スポットや名物を堪能することでプライベートも充実できており、浦島坂田船を推すことが私の日々の支えになっています。



私の○○

まるまる ○○にフリーワードを入れて語っていただきました

私の「登山」

近森オルソリハビリテーション病院

看護師

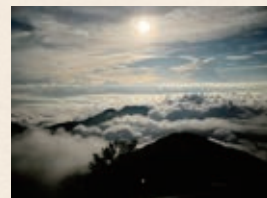
武吉 真紀

たけよし まき

山登りと自然が好きで、3年前から本格的に登山を始めました。主に四国の山を中心に日帰り登山をしています。昨年初めて北アルプス燕岳に挑戦しました。3,000m級の連なる山は四国では見る事のできない絶景で、燕岳からみえる槍ヶ岳はとてもカッコ良く、いつかは登ってみたい山の一つでもあります。

登山が好きな理由は、山頂に着いた時の達成感や稜線に出た時の開放感、圧倒的な絶景を眺めながら、食事をしたり日常から離れ、心身をリフレッシュする事ができるからです。また、今まで登山をした中で印象に残っているのは、雪山登山です。澄みきった青空や雪景色はもちろんですが、雪山をそりで滑って下山する爽快感は、最高に楽しくワクワクする体験でした。

山は、癒しをくれたり楽しませてくれる、エネルギーをたくさんもらえる所です。これからも、自然に触れながら、リフレッシュしていきたいと思っています。





日本屈指の山岳リゾート 上高地

かみこうち

8月上旬、日本初の本格的な山岳リゾートとして1933年に誕生した上高地帝国ホテルに2泊して、上高地をぶらりと巡ってきました。標高1,500mの上高地は、真夏日でも涼しくひんやりとした空気が広がり、澄み切った青空と大学時代山岳部で縦走した穂高連峰を間近に見て、ちょっととなつかしく快適な旅となりました。

ちなみに、上高地最下流にある大正池はどうして出来たのでしょうか？（答えは8ページの下）



梓川と河童橋からみた穂高連峰。



上高地帝国ホテルのベランダからみた穂高連峰。



幻想的な雰囲気にも包まれる田代池。



朝霧たちこめる大正池と焼岳・逆さ焼岳。



オレンジのデザート、クレブシュゼット。幻想的な演出、青い炎のフランク。



看護学校通信



9/12(土)
開催!

学園祭開催のお知らせ

近森病院附属看護学校 2年生 自治会長 萩森 緩南 はぎもり かんなん

9月12日(土)、近森病院附属看護学校にて学園祭を開催します。今年のテーマは「つながり」。学年を越えた交流はもちろん、地域の皆さまとのつながりを深められる学園祭を目指しています。学生自治会を中心に、来場された皆さまと一緒に楽しめる企画を準備しています。看護学校の雰囲気に触れながら、交流を楽しめる機会です。ぜひお気軽にご参加ください。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

編集室通信

今年もあちこちへ紫陽花を見に出かけました。色や形の違いに驚かされ、心惹かれる花もありましたが、結局は買わずに帰宅。ベランダには数鉢が片隅に寄せられたままです。花咲かじいさんにはまだなれそうにありません。まずはベランダを片付けることから始めなければと思う今日この頃です。 やまもり

診療数 2026年6月

—— 電子カルテ管理課 ——

● 近森会グループ

外来患者数	17,455人
新入院患者数	1,224人
退院患者数	1,153人

● 近森病院(急性期)

平均在院日数	10.64日
地域医療支援病院 紹介率	98.48%
地域医療支援病院 逆紹介率	290.11%
救急車搬入件数	560件
うち入院件数	358件
手術件数	689件
うち手術室実施	399件
うち全身麻酔件数	266件

早瀬 仁美

Hitomi Hayase

近森病院附属看護学校
教務助手

聞き手／ひろっぱ編集部

白衣とバイクの40年



「ワイルド」で「自由」というイメージも強い「ハーレーダビッドソン」。このハーレーを含めバイクを10台以上乗り継ぐ女性がいる。近森病院附属看護学校の早瀬先生である。学生には真面目な先生と思われているとの自認もあり、「あの先生がハーレーに乗っているなんて」と驚く学生も少なくないだろう。しかも、意外な顔はこれだけではなかった。

憧れの東京で、手に職を

7歳の時に父が他界。「手に職をつけて自立して暮らす」という想いから選んだのが看護師の道だった。一方で東京への憧れもあり、受験と合格発表が早かった東京の大学病院付属の看護学校へ進学し、系列病院でキャリアをスタートさせた。高知に戻った後、30歳で一戸建てをほぼ即決で購入したというからやはり豪傑ぶりがのぞく。

社会福祉の知識も武器に

県立あき総合病院に勤めていた時に、大学の通信課程で社会福祉学科を専攻し、社会福祉士とケアマネジャーの資格を取得した。その知識は高知医療センター在籍時代、地域医療連携室で活かされ、在宅復帰の手続きを設計する強みとなった。さらにコロナ禍では、同センターの感染症病棟棟長として最前線の指揮を執った。自分の不安はさておき、職員や患者さんの不安を和らげ、体制を整える日々は過酷を極めた。「今は、あの頃についた眉間のシワを一生懸命伸ばしている」と笑うが、「仕事では感情を抑えて、冷静に対応する」という言葉を何度も口にしていた。

風と大地と戯れて

時間があれば、愛車のハーレーダビッドソン「スポーツスター1200」で自由気ままにツーリングに出る。大学時代のサークル仲間とのつながりは今も健在で、年数回の合宿は学生時代からほぼ参戦中。今年の夏は三重県まで自走で遠征する予定だという。若かり頃は泥道を疾走するエンデューロレースにも没頭した猛者で、「走っている時こそ、生きている実感が湧く」と言葉に熱がこもる。

かと思えば、去年の秋からは家庭菜園にも挑戦し始めた。野菜作り教室で肥料設計



年に1、2度、遠くても会いに行きたくなるバイク仲間との旅。現地集合・現地解散でも、夜に囲む宴会が絆をつないでいる。



パッチワークも得意のようで、そのギャップも含めて「オフタイム」の行動力には驚かされた。

からしっかり学び、今ではパプリカ、ナス、ズッキーニと、食卓の野菜はほぼ自給自足。畑の写真を見せてくれた時の表情は控えめながら、とても楽しそうだった。

たゆたえども沈まず

看護師生活は40年を超すが、やめたい、もう駄目だと思ったことは数知れないと振り返る。それでも「看護師をやってよかった」と思えたのは、呼吸器疾患を抱えた実母を自宅で看取れた時だという。

そんな経験を踏まえ、早瀬先生から若い看護師や学生にこんなエールを送ってくれた。「まずは3日、次は3週間、3ヶ月。近森病院で3年働けば、きっと人生の勲章になると思う。積極的に泳げない時は、沈まないように浮かび続けられれば、そのうち動けるようになる」と。

仕事とプライベートはやはり両輪。仕事を頑張るためには休息の時間こそ大切である。「自分も何か挑戦しようかな」と静かに背中を押されるような取材となった。